

田原市廃棄物処理施設長寿命化計画

(個別施設計画)

施設類型：7 衛生施設

令和3年3月

廃棄物対策課

目 次

1 背景・目的等	1
(1) 背景と目的	1
(2) 計画期間	1
(3) 対象施設	2
ア 対象施設一覧	2
イ 対象施設建物一覧	3
2 施設の現状	4
(1) 施設の概要	4
ア 焼却処理施設等	4
イ 粗大ごみ処理施設	5
ウ 資源化・環境センター	5
エ 最終処分場	5
(2) 施設の利用状況	6
ア 焼却処理施設等（田原リサイクルセンター）	6
イ 粗大ごみ処理施設（東部資源化センター）	7
ウ 資源化・環境センター	7
エ 最終処分場	8
(3) 施設の運営状況	9
ア 運営人員	9
イ 運営コストの状況	9
(4) 施設の将来の必要コスト	12
ア 将来の更新コスト	12
イ 将来の維持管理コスト	18
ウ 将来必要となる施設のコスト	18
(5) 対象施設の老朽化状況及び施設健全度評価	19
ア 構造躯体以外の劣化状況等の評価	19
(6) 対象施設の評価	23
3 対策の優先順位の考え方	24
(1) 施設の状態	24
(2) 施設が果たしている役割等	25
(3) 施設整備の中長期的な基本的方針	26
ア 施設規模・配置等の方針	26
イ 今後の方向性	26
(4) 改修等の中長期的な基本的方針	27
ア 目標使用年数、改修周期の設定等	27

イ 長寿命化の方針.....	28
ウ 予防保全の方針.....	28
(5) 対策内容と実施時期.....	30
4 長寿命化のコストの見通し、効果	38
ア 将来の施設更新コスト.....	38
イ 将来の維持管理コスト.....	38
ウ 将来の施設更新コスト+将来の維持管理コスト.....	38
5 計画の推進	39
(1) 計画の推進方法.....	39
(2) 計画の進行管理.....	39

1 背景・目的等

(1) 背景と目的

田原市は、平成 15 年及び平成 17 年の 2 度の合併を経て、渥美半島の大半を占めることとなり、県内 7 位となる 191.11 k m²に及ぶ市の区域内には、旧町ごとに使用していた庁舎や文化ホール等、多種多様な施設が整備されています。

その中には、目的が重複しているもの、市民ニーズの多様化や社会環境の変化によって利用率が低下しているものもあり、また、本市が保有する施設は昭和 50 年代に整備されたものが多く、今後、一定期間に大規模改修や建替えが集中することが予測されています。

そのため、田原市では、公共施設の設置目的や利用実態、コストなどの現状を分かりやすく「見える化」し、広く市民に知ってもらう啓発資料とするため、平成 26 年 2 月に「田原市公共施設白書」を取りまとめるとともに、同年 12 月には、将来にわたって持続的に公共サービスを提供していくため、本市の公共施設のあり方の基本的な考え方を取りまとめた「田原市公共施設適正化計画（平成 30 年 12 月廃止）」を策定しました。

また、国においても、厳しい財政状況や人口減少などの状況を踏まえ、地方公共団体が公共施設等の全体状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化や公共施設等の最適な配置などの実現を推進するため、全国の地方公共団体に対し、公共施設等総合管理計画の策定を要請し、田原市では、平成 28 年 2 月、道路や下水道などインフラ施設を含めた「田原市公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）」を取りまとめました。（平成 30 年 12 月改定）

今回定める「田原市廃棄物処理施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）」は、総合管理計画に基づき廃棄物対策課が所管する廃棄物処理施設の維持管理及び更新等に係る中長期的な取組の方向性を明らかにする計画であり、総合管理計画に基づく廃棄物処理施設の個別施設計画として位置付けるものです。また、本計画は、環境省において策定を推進している「廃棄物処理施設長寿命化総合計画」としての役割を担うものとなります。

(2) 計画期間

総合管理計画の計画期間は、平成 30 年度から令和 19 年度までの 20 年間を計画期間としていることから、本計画の計画期間を、令和 3 年度から令和 19 年度までの 17 年間とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の補助制度の変更、各施設の点検結果、劣化状況に応じて適宜見直しを図ります。

(3) 対象施設

本計画の対象施設は、総合管理計画で個別施設計画を策定する施設とした以下の施設とします。

ア 対象施設一覧

施設 I D	施設名	施設区分	敷地面積	竣工	規模	備考
2	旧田原リサイクルセンター	ごみ燃料化施設/資源化施設 最終処分場	12,000 m ²	S62 S62	- 51,598 m ³	休止 埋立終了
3	東部資源化センター	資源化センター（ストックヤード） 粗大ごみ処理施設 最終処分場	17,000 m ²	H6 H6 H6	162 m ³ 15 t /5h 78,900 m ³	埋立終了
4	第二東部最終処分場	最終処分場	33,900 m ²	H19	40,600 m ³	
5	赤羽根環境センター	環境センター（ストックヤード） 焼却施設 最終処分場	1,282 m ²	H6 H6 H6	156 m ³ 5 t /日 12,200 m ³	休止
6	渥美資源化センター	資源化センター	12,237 m ²	H19	346 m ³	
7	渥美最終処分場	最終処分場	44,080 m ²	H7	150,500 m ³	
379	田原リサイクルセンター 炭生館 * ¹	焼却施設（炭化）	11,362 m ²	H17	60 t /日	
合計			131,861 m ²			

※施設 I Dは「資産経営システム」の登録番号を指す

*¹ 田原リサイクルセンター炭生館は、PFI 事業終了後の令和 2 年 4 月に特別目的会社から施設を田原市が譲り受けた。

イ 対象施設建物一覧

施設 I D	施設名	建物	床面積	建築 年度	構造	階数 (B)	経過 年数
2	旧田原リサイクルセンタ ー	工場棟	1,195.45 ㎡	S60	鉄筋コンクリート造	2	35
		貯留・再資源化施設	260.28 ㎡	S60	鉄筋コンクリート造	1	35
		管理棟	154.00 ㎡	S60	鉄筋コンクリート造	2	35
		車庫	56.00 ㎡	S60	鉄骨造	1	35
		排水処理棟	48.00 ㎡	S60	コンクリートブロック造	1	35
		浸出液処理施設機械棟	74.00 ㎡	S60	鉄骨造	1	35
		不燃物積込場	40.96 ㎡	H2	鉄骨造	1	30
		埋立排水薬品倉庫	25.73 ㎡	H4	鉄骨造	1	28
3	東部資源化センター	前処理施設	352.63 ㎡	H6	鉄骨造	2	26
		水処理施設	141.34 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		工場棟	300.00 ㎡	H18	鉄骨造	1	14
		ストックヤード	90.00 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		管理棟	28.35 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		ストックヤード	72.00 ㎡	H13	鉄骨造	1	19
		管理棟	10.12 ㎡	H8	鉄骨造	1	24
4	第二東部最終処分場	機械棟	611.92 ㎡	H19	鉄骨造	1	13
		管理棟	40.50 ㎡	H19	鉄骨造	1	13
		公園便所	13.03 ㎡	H19	木造	1	13
		公園東屋	16.00 ㎡	H19	木造	1	13
5	赤羽根環境センター	管理棟	217.08 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		倉庫	156.06 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		水処理施設機械室	181.44 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		計量棟	68.00 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		焼却施設工場棟	570.74 ㎡	H6	鉄骨造	3(1)	26
		車庫	79.57 ㎡	H6	鉄骨造	1	26
		焼却施設工場棟	9.15 ㎡	H23	鉄骨造	3	9
6	渥美資源化センター	管理棟	127.98 ㎡	S51	鉄骨造	1	44
		空缶処理作業場	82.82 ㎡	H3	鉄骨造	1	29
		車庫	83.00 ㎡	S51	鉄骨造	1	44
		パーゴラ	105.30 ㎡	H3	鉄骨造	1	29
		倉庫	346.00 ㎡	H19	鉄骨造	1	13
7	渥美最終処分場	管理棟	56.00 ㎡	H7	鉄骨造	1	25
		処理棟	266.00 ㎡	H7	鉄骨造	1	25
379	田原リサイクルセンター 炭生館	焼却処理施設（炭化）	3,946.23 ㎡	H17	鉄骨鉄筋コンクリート造	4(1)	15
合計			9,825.68 ㎡				

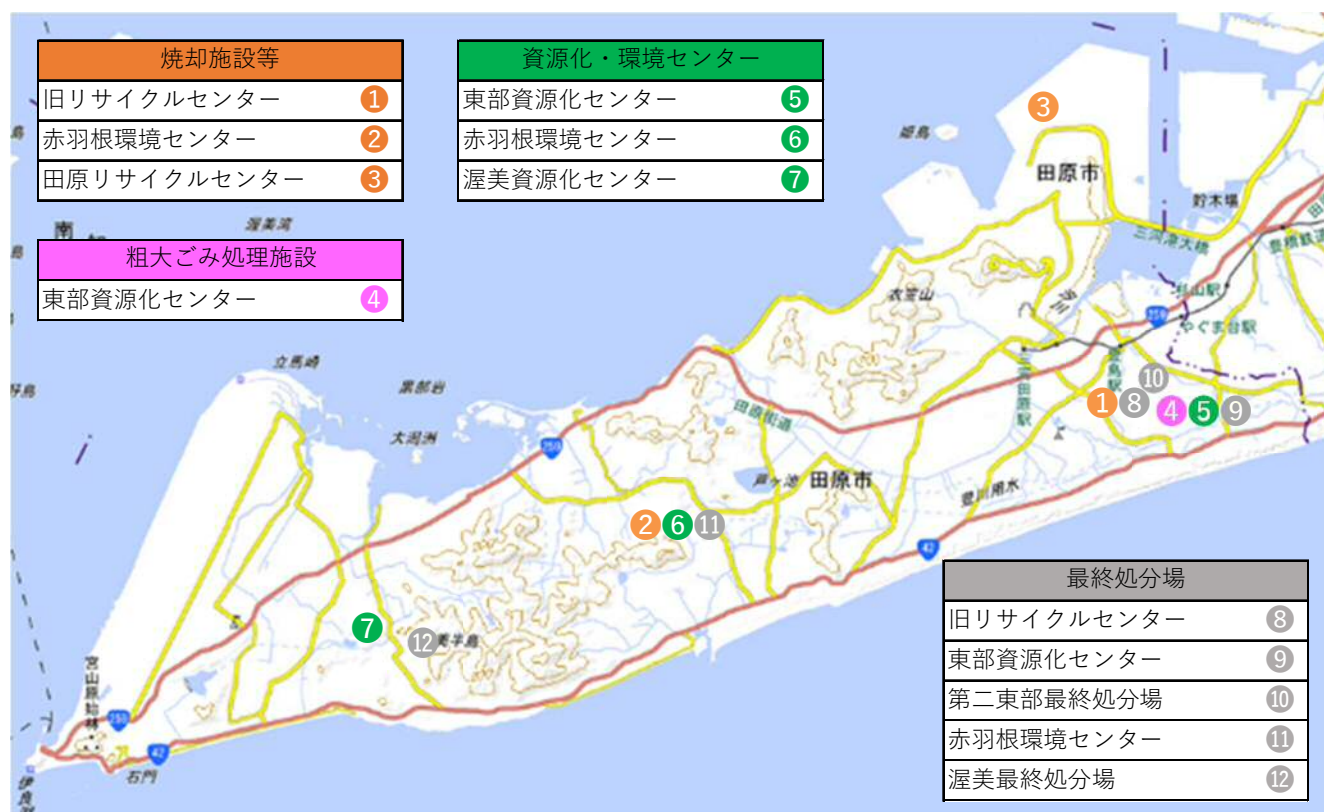
※経過年数は、令和3年3月末時点

※資料：資産経営システムの建物台帳

2 施設の現状

(1) 施設の概要

廃棄物は、市内で一括処理しているものの、廃棄物を処理する施設の多くは、平成の大合併前に整備してきた施設をそのまま引き継ぐ形で分散処理又は休止のまま施設が存置されています。



位置図

ア 焼却処理施設等

項目	①旧田原リサイクルセンター	②赤羽根環境センター	③田原リサイクルセンター
所在地	六連町神ノ釜 8-1	赤羽根町西山 1-68	緑が浜二号 2-91
処理する廃棄物の種類	可燃ごみ、家庭系ごみ	可燃ごみ、その他	可燃ごみ、粗大ごみ
処理能力	2.6 t/h (可燃ごみ) 47 t/日 (家庭系ごみ)	5 t/日	60 t/日 (30 t × 2 炉)
処理方式	固形燃料化施設 (可燃ごみ) 堆肥化施設 (家庭系ごみ)	焼却施設 ストーカ式 (可動)	炭化施設 流動床式
稼働状況	休止	休止	稼働中

【運営時間】 田原リサイクルセンター：月曜日から金曜日の 8 時 30 分から 16 時 30 分まで

土曜日・祝日・12 月 30 日は 8 時 30 分から正午まで

※土曜日・祝日の午後、日曜日、年末年始（12 月 30 日の午後から 1 月 3 日まで）は休場日です。

イ 粗大ごみ処理施設

項目	④東部資源化センター
所在地	相川町鳴森 87-5
処理する廃棄物の種類	粗大ごみ
処理能力	15 t /日
処理方式	破碎処理
稼働状況	稼働中

ウ 資源化・環境センター

項目	⑤東部資源化センター	⑥赤羽根環境センター	⑦渥美資源化センター
所在地	相川町鳴森 87-5	赤羽根町西山 1-68	福江町清荒子 1-1
処理する廃棄物の種類	粗大ごみ、資源ごみ、埋めるごみ		
処理能力	ストックヤード 162 m ²	ストックヤード 156 m ²	ストックヤード 346 m ²
稼働状況	稼働中	稼働中	稼働中

【運営時間】 火曜日から日曜日の 8 時 30 分から正午まで、13 時から 16 時 30 分まで

※月曜日、祝日、年末年始（12 月 31 日から 1 月 5 日まで）は休場日です。

エ 最終処分場

■埋立終了施設

項目	⑧旧田原リサイクルセンター	⑨東部資源化センター
設置場所	六連町神ノ釜 8-1	相川町鳴森 50 他
埋立対象物	不燃性ごみ	不燃物
埋立地面積	11,300 m ²	9,100 m ²
埋立容量	51,598 m ³	78,900 m ³
埋立終了年度	平成 11 年度	平成 15 年度
遮水の方式	表面遮水工（キャッピング）	底部遮水工
浸出水処理施設（処理能力）	45 m ³ /日	70 m ³ /日

■稼働施設

項目	⑩第二東部最終処分場	⑪赤羽根環境センター	⑫渥美最終処分場
設置場所	谷熊町南御納 7 他	赤羽根町西山 1-68 他	和地町南大坂 2 他
埋立対象物	固化飛灰、不燃物	不燃物等、焼却残渣	不燃物等、焼却残渣
埋立地面積	6,900 m ²	3,900 m ²	44,080 m ²
埋立容量	40,600 m ³	12,200 m ³	150,500 m ³
遮水の方式	底部遮水工	底部遮水工	底部遮水工
浸出水処理施設（処理能力）	30 m ³ /日	25 m ³ /日	76 m ³ /日

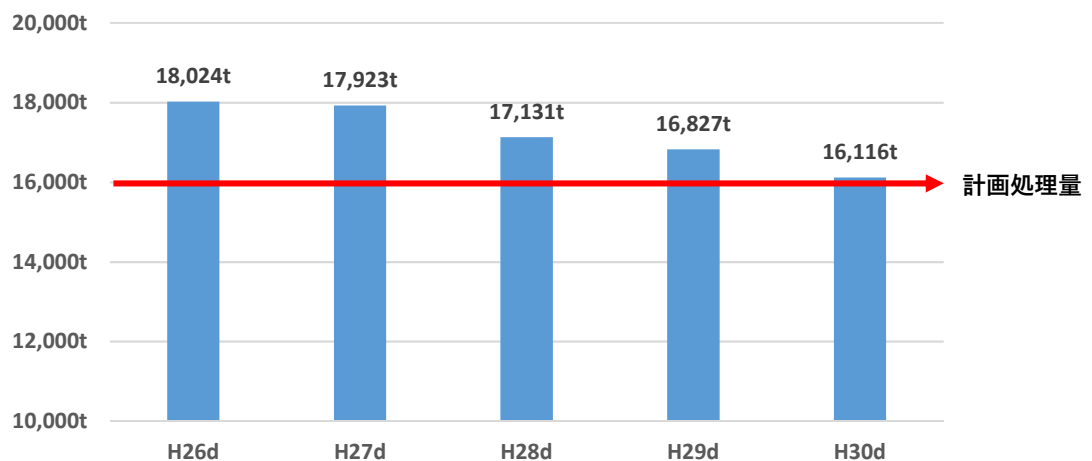
（２）施設の利用状況

ア 焼却処理施設等（田原リサイクルセンター）

■ごみ処理量（もやせるごみ）の推移

田原リサイクルセンターは、稼働当初から計画処理量の 16,000t/年を超過して運転してきましたが、平成 27 年度以降はごみ減量・資源化施策により年々減少しており、平成 30 年度は概ね計画処理量にまでもやせるごみは減少しました。

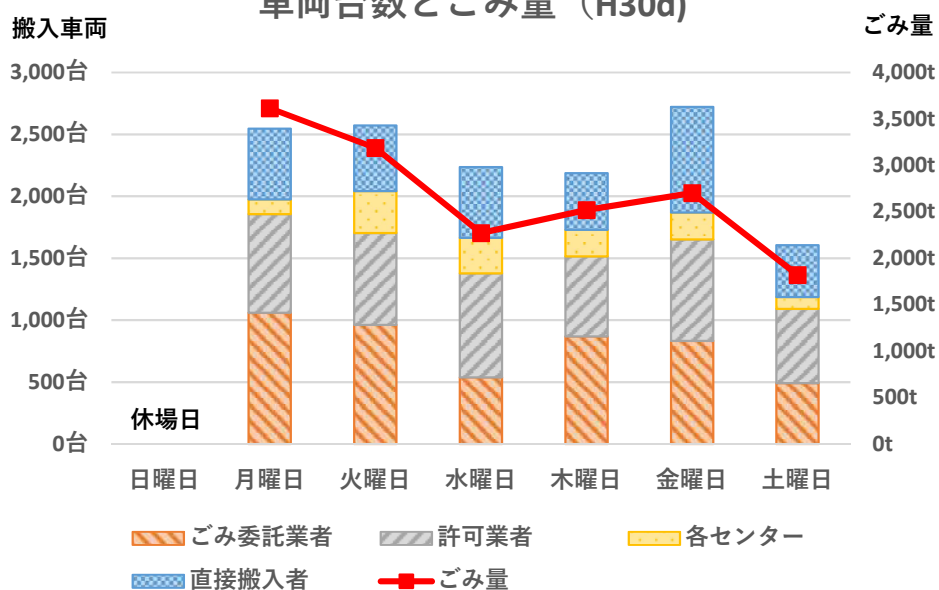
田原リサイクルセンターごみ量（年度別）



■車両台数の推移

家庭ごみの収集運搬は、月・木、火・金及び水・土の週 3 サイクルをごみ委託業者が回収しています。ごみ委託業者の車両台数は、3 サイクルいずれも日曜日の次の回収日（月・火・水）が多くなっています。

田原リサイクルセンター曜日別
車両台数とごみ量（H30d）



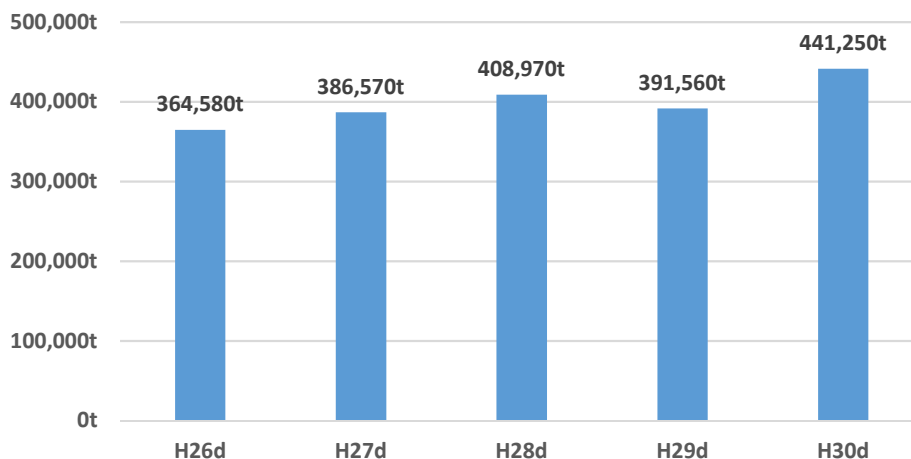
イ 粗大ごみ処理施設（東部資源化センター）

■ごみ処理量の推移

東部資源化センターの粗大ごみ処理施設で破碎したごみは、田原リサイクルセンターで炭化処理しています。

田原リサイクルセンターで処理しているもやせるごみは、年々減少しているものの、粗大ごみ処理施設で破碎処理したごみは増加傾向にあります。

粗大ごみ処理施設ごみ量

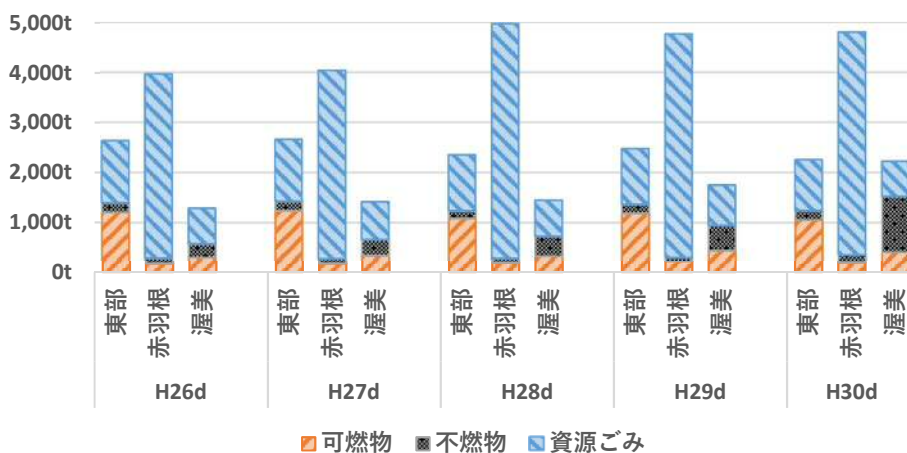


ウ 資源化・環境センター

■ごみ処理量の推移

資源化・環境センターで受け入れているごみ量は年々増加しています。最も受入量が多いのは赤羽根環境センターで、唯一剪定枝木を受入していることが影響しています。また、H30d 渥美の不燃物の受入量が多い原因は、火災ごみや台風被害の影響によるものです。

資源化・環境センターごみ受入量

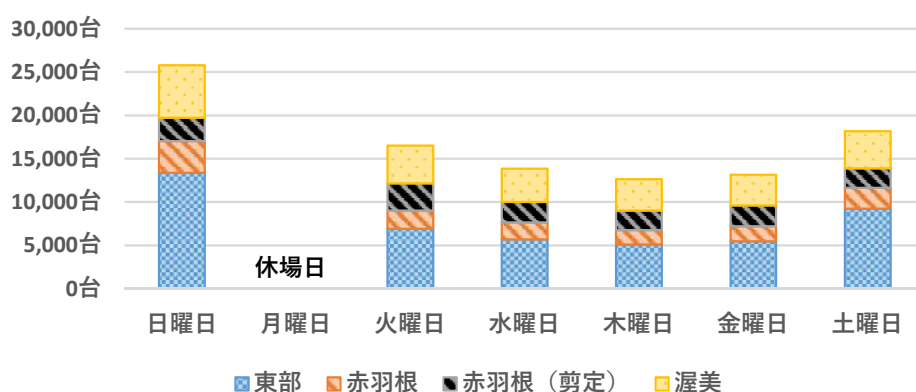


■車両台数の推移

資源化・環境センターで受け入れているごみは、「粗大ごみ」、「こわすごみ」、「資源ごみ類」及び「埋めるごみ」です。赤羽根環境センターは、それ以外に「剪定枝木」の受入れを行っています。

受入車両台数の多い曜日は、休日の日曜日ですが、剪定枝木は施設の休場日の翌日の火曜日が多くなっています。また、資源化・環境センターで比較すると、受入車両の最も多いのは東部資源化センターで、赤羽根環境センター及び渥美資源化センターは概ね同じ車両台数となっています。

資源化・環境センター受入車両台数
(H30d)



Ⅱ 最終処分場

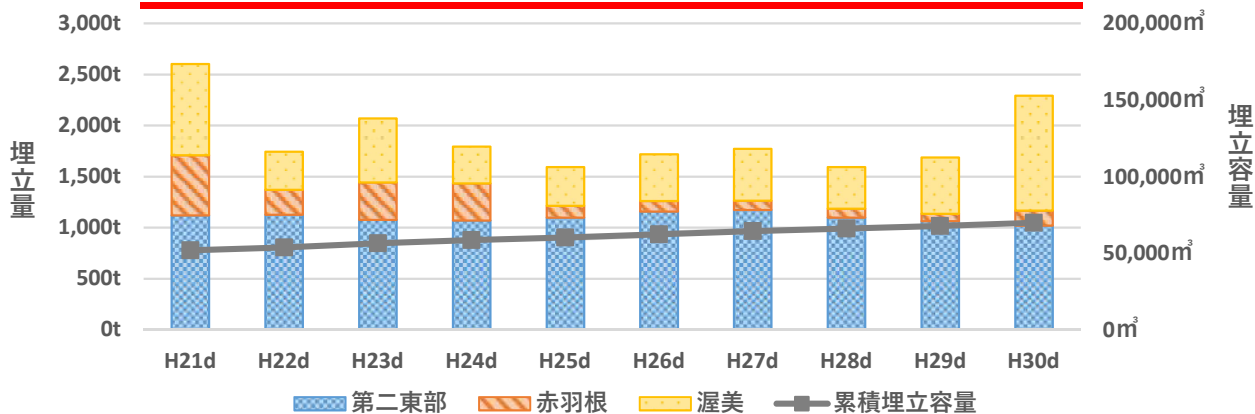
第二東部最終処分場、赤羽根環境センター及び渥美最終処分場の10年間の埋立実績は次のとおりです。

第二東部資源化センターは、田原リサイクルセンターから持ち込まれる固化飛灰や不燃物などを入れており、概ね1,000tで推移しています。赤羽根環境センターは平成24年度まで旧リサイクルセンターで埋立していた過去のごみを赤羽根環境センターの焼却施設で焼却処理しており、そこから出た不燃ごみを埋立していたため、埋立量が多くなっています。渥美最終処分場は、主に旧田原町及び旧渥美町からでる不燃ごみを埋立しています。台風等による被害により埋立量は増減しています。

最終処分場は、5年間の埋立実績から算定しますと50年以上使用することができます。

最終処分場埋立実績

処分場容量：203,300 m³



(3) 施設の運営状況

ア 運営人員（令和2年度）

施設名	事務員	会計年度任用職員	備考
旧田原リサイクルセンター	0	0	東部資源化センター職員が兼務
東部資源化センター	2	10	
第二東部最終処分場	0	0	東部資源化センター職員が兼務
赤羽根環境センター	2	4	
渥美資源化センター	2	2	
渥美最終処分場	0	0	渥美資源化センター職員が兼務
田原リサイクルセンター	0	0	R2d から長期包括委託

イ 運営コストの状況（過去5カ年）

廃棄物処理施設の7施設における過去5年の年間平均トータルコストは964,519千円、年間トータルコストのうち、施設にかかるコストは73,618千円、事業運営にかかるコストは803,095千円となっています。

事業運営にかかるコストのうち、人件費が87,800千円で全体の9.0%占めています。

（単位：千円）

施設名	旧田原リサイクルセンター						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	14,955	6,815	6,195	7,640	8,390	43,995	8,799
事業運営にかかるコスト	1,586	2,083	1,049	1,194	2,179	8,091	1,618
人にかかるコスト	1,039	863	868	1,459	1,291	5,520	1,104
年間トータルコスト	17,580	9,761	8,112	10,293	11,860	57,606	11,521

（単位：千円）

施設名	東部資源化センター						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	50,821	34,950	20,392	22,799	25,632	154,592	30,918
事業運営にかかるコスト	21,042	25,828	24,260	23,937	20,236	115,303	23,060
人にかかるコスト	38,633	34,746	34,317	32,675	32,108	172,479	34,495
年間トータルコスト	110,496	95,524	78,969	79,411	77,976	442,376	88,475

(単位：千円)

施設名	第二東部最終処分場						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	10,887	10,411	9,490	9,997	13,721	54,506	10,901
事業運営にかかるコスト	822	705	483	0	413	2,423	484
人にかかるコスト	5,285	4,640	4,618	4,441	4,477	23,461	4,692
年間トータルコスト	16,994	15,756	14,591	14,438	18,611	80,390	16,078

(単位：千円)

施設名	赤羽根環境センター						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	9,715	11,770	8,543	9,794	9,878	49,700	9,940
事業運営にかかるコスト	38,193	38,673	45,794	45,154	49,564	217,378	43,475
人にかかるコスト	37,669	35,915	25,769	27,192	24,641	151,186	30,237
年間トータルコスト	85,577	86,358	80,106	82,140	84,083	418,264	83,652

(単位：千円)

施設名	渥美資源化センター						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	4,029	5,690	2,534	1,338	2,811	16,402	3,280
事業運営にかかるコスト	31,255	10,700	10,579	10,851	10,770	74,155	14,831
人にかかるコスト	11,217	10,086	11,719	12,153	13,589	58,764	11,752
年間トータルコスト	46,501	26,476	24,832	24,342	27,170	149,321	29,864

(単位：千円)

施設名	渥美最終処分場						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	8,207	13,825	8,837	8,952	9,081	48,902	9,780
事業運営にかかるコスト	178,255	2,223	2,563	1,361	1,732	186,134	37,226
人にかかるコスト	2,759	2,386	3,157	3,573	3,440	15,315	3,063
年間トータルコスト	189,221	18,434	14,557	13,886	14,253	250,351	50,070

(単位：千円)

施設名	田原リサイクルセンター炭生館						
項目	H26	H27	H28	H29	H30	合計	年平均
施設にかかるコスト	0	0	0	0	0	0	0
事業運営にかかるコスト	687,556	690,419	672,897	678,693	682,443	3,412,008	682,401
人にかかるコスト	2,906	2,261	2,314	2,017	2,789	12,287	2,457
年間トータルコスト	690,462	692,680	675,211	680,710	685,232	3,424,295	684,859

※事業運営にかかるコストは、PFI 事業の委託料から算定。

※人にかかるコストは、事務事業評価の人件費から算定。

（４）施設の将来の必要コスト（17 年間）

「衛生施設（廃棄物処理施設）」について、事後保全で単純更新した場合の今後 17 年間に必要となるコストは以下のとおりです。なお、田原リサイクルセンターは、令和 2 年度から 5 年間の運用に耐え得るよう施設設備の延命措置を行います。そのコストは「イ 将来の維持管理コスト」に計上しています。

ア 将来の更新コスト

（単位：千円）

施設名	旧田原リサイクルセンター								年度別計
	工場棟	貯留・再資源化施設	管理棟	車庫	排水処理棟	浸出液処理施設機械棟	不燃物積込場	埋立排水薬品倉庫	
R3									
R4								4,741	4,741
R5									
R6									
R7									
R8									
R9									
R10									
R11									
R12	102,917	37,497	18,338	1,473	7,838	11,555			179,618
R13									
R14									
R15									
R16									
R17							6,736		6,736
R18									
R19								866	866
施設別計	102,917	37,497	18,338	1,473	7,838	11,555	6,736	5,607	191,961

(単位：千円)

施設名	東部資源化センター							年度別 計
	前処理施設	水処理施設	工場棟	ストック ヤード	管理棟	ストック ヤード	管理棟	
R3			41,967					41,967
R4								
R5								
R6	146,805	106,784		11,959	30,913			296,461
R7		147						147
R8							16,459	16,459
R9								
R10								
R11								
R12	3,117		1,048					4,165
R13						10,072		10,072
R14								
R15								
R16								
R17								
R18			215,502					215,502
R19								
施設別計	149,922	106,931	258,517	11,959	30,913	10,072	16,459	584,773

(単位：千円)

施設名	第二東部最終処分場				年度別 計
	機械棟	管理棟	公園便 所	公園東 屋	
R3					
R4	9,747	7,560	2,012	41	19,360
R5					
R6					
R7					
R8					
R9					
R10					
R11					
R12					
R13					
R14					
R15					
R16					
R17					
R18					
R19	54,058	40,389	10,152	370	104,969
施設別計	63,805	47,949	12,164	411	124,329

(単位：千円)

施設名	赤羽根環境センター							年度別計
	管理棟	倉庫	水処理施設機械室	計量棟	焼却施設工場棟	車庫	焼却施設工場棟	
R3								
R4								
R5								
R6	174,490	18,312	134,779	57,297	175,783	10,735		571,396
R7								
R8							1,817	1,817
R9								
R10								
R11								
R12								
R13								
R14								
R15								
R16								
R17								
R18								
R19								
施設別計	174,490	18,312	134,779	57,297	175,783	10,735	1,817	573,213

(単位：千円)

施設名	渥美資源化センター					年度別 計	渥美最終処分場		年度別 計
	管理棟	空缶処 理作業 場	車庫	パーゴラ	倉庫		管理棟	処理棟	
R3	21,478	67,179	1,975	2,429		93,061			
R4					6,082	6,082			
R5									
R6									
R7							52,632	192,354	244,986
R8									
R9									
R10									
R11									
R12									
R13									
R14									
R15									
R16									
R17									
R18	50,292	12,719	32,868	267		96,146			
R19					35,419	35,419			
施設別計	71,770	79,898	34,843	2,696	41,501	230,708	52,632	192,354	244,986

(単位：千円)

施設名	旧田原リサイクルセンター	東部資源化センター	第二東部最終処分場	赤羽根環境センター	渥美資源化センター	渥美最終処分場	田原リサイクルセンター炭生館	年度別計
R3		41,967			93,061			135,028
R4	4,741		19,360		6,082			30,183
R5								
R6		296,461		571,396			<u>4,660,514</u>	5,528,371
R7		147				244,986		245,133
R8		16,459		1,817				18,276
R9								
R10								
R11								
R12	179,618	4,165						183,783
R13		10,072						10,072
R14								
R15								
R16								
R17	6,736							6,736
R18		215,502			96,146			311,648
R19	866		104,969		35,419			141,254
施設別計	191,961	584,773	124,329	573,213	230,708	244,986	<u>4,660,514</u>	6,610,484

※下線は循環型社会形成推進交付金活用を見込む

イ 将来の維持管理コスト

(単位：千円)

施設名	施設にかかるコスト	事業運営に係るコスト	人にかかるコスト	施設別計
旧田原リサイクルセンター	149,583	27,506	18,768	195,857
東部資源化センター	525,606	392,020	586,415	1,504,041
第二東部最終処分場	185,317	8,228	79,764	273,309
赤羽根環境センター	168,980	739,075	514,029	1,422,084
渥美資源化センター	55,760	252,127	199,784	507,671
渥美最終処分場	166,260	632,842	52,071	851,173
田原リサイクルセンター炭生館	0	11,600,817	41,769	11,642,586
計	1,251,506	13,652,615	1,492,600	16,396,721

ウ 将来必要となる施設のコスト (更新コスト+維持管理コスト)

(単位：千円)

施設名	ア 将来の更新コスト	イ 将来の維持管理コスト	施設別計
旧田原リサイクルセンター	191,961	195,857	387,818
東部資源化センター	584,773	1,504,041	2,088,814
第二東部最終処分場	124,329	273,309	397,638
赤羽根環境センター	573,213	1,422,084	1,995,297
渥美資源化センター	230,708	507,671	738,379
渥美最終処分場	244,986	851,173	1,096,159
田原リサイクルセンター炭生館	4,660,514	11,642,586	16,303,100
計	6,610,484	16,396,721	23,007,205

（５）対象施設の老朽化状況及び施設健全度評価

ア 構造躯体以外の劣化状況等の評価

本市の「衛生施設（廃棄物処理施設）」について、下記のルールに基づき、棟ごとの劣化状況を健全度として算定しました。なお、田原リサイクルセンターは施設を構成する設備・機器等の性能劣化が激しく、他の施設と比較しづらいため、「廃棄物処理施設長寿命化総合計画策定の手引き」（平成 27 年 3 月改訂 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策本部廃棄物対策課）の内容に準じて評価しました。

建築物の劣化状況等に関する判定基準

判定	劣化状況	劣化状況の定量的な判定基準の目安			
		1)ひび割れ 外壁、内部仕上げ等	2)浮き剥離 外壁、内部仕上げ等	3)腐食（錆） 外壁、内部仕上げ等	4)作動不良 電気設備等
A	・全体的に健全である。 ・緊急修繕の必要がなく、日常の維持管理で対応するもの。	劣化部が 全体の 0～10% 程度	0～10% 程度	部分的に 錆が発生 (1%以下)	施設が問題なく本来の機能を維持している状態（築 10 年を目安）
B	・全体的に健全であるが、部分的な劣化が進行している。 ・緊急修繕の必要はないが、維持管理の中で定期的な観察が必要なもの	10～40% 程度	10～30% 程度	部分的に 錆が発生 (1%を超え 33%未満)	多少の不具合が確認されるが、施設は機能している状態（築 20 年を目安）
C	・全体的に劣化が進行している。 ・現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修が必要なもの。	40～70% 程度	30～50% 程度	部分的に 錆が発生 (33%を超え 50%未満)	明らかに不具合箇所があり、施設の機能が部分的に損なわれている状態（築 30 年を目安）
D	・全体的に顕著な劣化がある。 ・重大な事故に繋がるおそれがあり、施設の利用禁止あるいは、緊急の補修が必要なもの。	70～100% 程度	50～100% 程度	部分的に 錆が発生 (50%以上)	施設本来の機能を全く維持していない状態（築 40 年以上を目安）

良好

劣化

部位の評価点

判定	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

部位のコスト配分

部位	コスト配分
屋上・屋根	5.1
外壁	17.2
内部仕上	22.4
電気設備	8.0
機械設備	7.3
合計	60.0

健全度の算定方法

$$\text{健全度} = (\text{部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分}) \div 60.0$$

健全度の計算例

部位	判定	評価点	コスト配分		
屋上・屋根	A	100	5.1	×	510.0
外壁	B	75	17.2	×	1290.0
内部仕上	C	40	22.4	×	896.0
電気設備	A	100	8.0	×	800.0
機械設備	B	75	7.3	×	547.5
合計					4,043.5
					÷60
健全度					67

（出典：田原市学校未来創造計画）

以下の表は、財産台帳を基に、前頁のルールに従い棟ごとの劣化状況を整理したものです。

建物情報						劣化状況評価						備考
施設 I D	施設名	建物 I D	建物名	建築年度		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度	
				西暦	和暦							
2	旧田原リサイクルセンター	3	工場棟	1985	S60	B	B	B	D	D	58	
		4	貯留・再資源化施設	1985	S60	B	B	B	D	D	58	
		5	管理棟	1985	S60	B	C	C	C	D	39	
		6	車庫	1985	S60	B	B	C	C	C	53	
		7	排水処理棟	1985	S60	B	B	B	D	D	58	
		8	浸出液処理施設機械棟	1985	S60	C	C	C	B	D	41	
		9	不燃物積込場	1990	H2	D	D	D	D	D	10	
		10	埋立排水薬品倉庫	1992	H4	B	B	B	B	B	75	
3	東部資源化センター	11	前処理施設	1994	H6	B	C	B	B	D	57	
		12	水処理施設	1994	H6	B	C	B	C	C	56	
		13	工場棟	2006	H18	A	B	D	A	C	52	
		14	ストックヤード	1994	H6	B	B	D	B	B	51	
		15	管理棟	1994	H6	B	B	D	B	C	46	
		16	ストックヤード	2001	H13	B	B	B	A	C	74	
		1072	管理棟	1996	H8	C	B	C	D	C	46	
4	第二東部最終処分場	17	機械棟	2007	H19	A	A	A	A	C	93	
		18	管理棟	2007	H19	A	B	D	A	A	59	
		19	公園便所	2007	H19	A	A	B	A	A	91	
		20	公園東屋	2007	H19	A	B	B	A	C	76	
5	赤羽根環境センター	21	管理棟	1994	H6	C	B	A	A	A	88	
		22	倉庫	1994	H6	B	B	B	B	B	75	
		23	水処理施設機械室	1994	H6	B	B	C	B	C	58	
		24	計量棟	1994	H6	A	C	B	B	B	67	
		25	焼却施設工場棟	1994	H6	B	D	C	D	D	27	
		26	車庫	1994	H6	B	B	B	B	B	75	
		1079	焼却施設工場棟	2011	H23	A	A	B	C	C	75	

A : 概ね良好

C : 広範囲に劣化

B : 部分的に劣化

D : 早急に対応する必要がある

建物情報						劣化状況評価						備考
施設 I D	施設名	建物 I D	建物名	建築年度		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度	
				西暦	和暦							
6	渥美資源化センター	27	管理棟	1976	S51	C	C	C	B	B	49	
		28	空缶処理作業場	1991	H3	C	B	C	B	C	55	
		29	車庫	1976	S51	C	C	C	B	C	45	
		30	パーゴラ	1991	H3	B	B	C	C	B	57	
		31	倉庫	2007	H19	A	A	A	A	A	100	
7	渥美最終処分場	32	管理棟	1995	H7	B	B	A	B	B	84	
		33	処理棟	1995	H7	B	B	A	B	B	84	

A: 概ね良好

C: 広範囲に劣化

B: 部分的に劣化

D: 早急に対応する必要がある

■ 田原リサイクルセンターの施設保全計画

本施設は、多くの設備・機器により複層的に構成されていることで、施設としての処理性能を発揮しており、かつその設置環境から劣化速度の速い設備・機器が多い施設となります。このような特徴をもつ本施設は、個々の設備・機器を適正に保全し、かつ機能診断、評価、改善することで設備・機器等の延命化を図る必要があります。

そこで、効果的に施設の保全管理を行うために、以下のとおり重要な設備・機器を選定した上で、その設備・機器を中心とした施設保全計画を以下のとおり作成しました。

【主要設備・機器の選定】

本施設は多種多様な装置から構成されており、装置全体に対して特性・機能により重要度にランクがあります。施設を効率的に保全するために、構成する設備・装置について重要性を検討し主要な設備・機器を選定しました。

重要度の決定には、施設の安全運転を行うことは当然ながら、装置に故障が生じた場合の環境面、コスト面等への影響を総合的に考慮し決定しました。

設備・装置の重要度の基準

高 重要度 低	A	故障した場合に炉の運転停止に結びつく設備・機器
	B	故障した場合でも、予備機で対応することができるなど、ある程度の冗長性を有するもの。炉の運転に重要で、修繕に日数を要し、かつ、高価な設備・機器
	C	A 及び B に分類されるもの以外の設備・機器

【各設備・機器の保全方式の選定】

主要設備・機器の保全方式には、以下に示すとりの方式が考えられます。各主要設備・機器に対し、重要性等を踏まえて保全方式を選定しました。

保全方式と選定の留意点

保全方式		保全方式選定の留意点
事後保全 (BM)		● 故障してもシステムを停止せず容易に保全可能なもの（予備系列に切り替えて保全できるものを含む）。 ● 保全部材の調達が容易なもの。
予 防 保 全 (PM)	時間基準保全 (TBM)	● 具体的な劣化の兆候を把握しにくい、あるいはパッケージ化されて損耗部のみのメンテナンスが行いにくいもの。 ● 構成部品に特殊部品があり、その調達期限があるもの。
	状態基準保全 (CBM)	● 摩耗、破損、性能劣化が、日常稼働中あるいは定期点検において、定量的に測定あるいは比較的容易に判断できるもの。

事後保全(BM) : Breakdown Maintenance

予防保全(PM) : Prevention Maintenance

時間基準保全(TBM) : Time-Based Maintenance

状態基準保全(CBM) : Condition-Based Maintenance

【機能診断法】

主要設備・機器別に、機能診断技術の検討を行いました。設備・機器別の機能診断技術法は施設保全計画に示す方法とします。

【健全度の評価】

現地調査や月例報告書、定期点検・修理結果報告書等から得られた最新の設備・機器の状況をもとに、各主要設備・機器の健全度の評価を行いました。

健全度とは、各設備・機器の劣化状況を数値化した指標であり、健全度が高いほど状態が良く、健全度が低ければ状態が悪化し、劣化が進んでいることを示します。各主要設備・機器の健全度の評価基準は以下に示します。

健全度の判断基準

健全度	状態	措置
4	支障なし	対処不要
3	軽微な劣化があるが、機能に支障なし	経過観察
2	劣化が進んでいるが、機能回復が可能である	部分補修・部分交換
1	劣化が進み、機能回復が困難である	全交換

【修繕スケジュール】

各主要設備・機器の健全度を評価し、その健全度や過去の履歴（主要設備・機器の修繕・整備履歴、故障データ、劣化パターン等）も考慮した劣化の予測の結果をもとに今後の修繕スケジュールを作成します。

(6) 対象施設の評価

■市民1人当たりにかかるコスト

将来必要となる施設の17年間のコスト ※P18 再掲

(単位：千円)

施設名	ア 将来の更新コスト	イ 将来の維持管理コスト	施設別計
旧田原リサイクルセンター	191,961	195,857	387,818
東部資源化センター	584,773	1,504,041	2,088,814
第二東部最終処分場	124,329	273,309	397,638
赤羽根環境センター	573,213	1,422,084	1,995,297
渥美資源化センター	230,708	507,671	738,379
渥美最終処分場	244,986	851,173	1,096,159
田原リサイクルセンター	4,660,514	11,642,586	16,303,100
計	6,610,484	16,396,721	23,007,205

将来必要となる17年間における1年間の平均コストと市民1人当たりにかかるコスト

(単位：円)

施設名	ア 将来の更新 コスト1年平均	イ 将来の維持管理 コスト1年平均	施設別計 1年平均	市民1人当たり にかかるコスト
旧田原リサイクルセンター	11,292,000	11,521,000	22,813,000	371
東部資源化センター	34,398,000	88,475,000	122,873,000	1,996
第二東部最終処分場	7,313,000	16,078,000	23,391,000	380
赤羽根環境センター	33,718,000	83,653,000	117,371,000	1,906
渥美資源化センター	13,571,000	29,864,000	43,435,000	706
渥美最終処分場	14,411,000	50,070,000	64,481,000	1,047
田原リサイクルセンター	274,148,000	684,858,000	959,006,000	15,577
計	388,851,000	964,519,000	1,353,370,000	21,983

※人口は令和2年3月31日現在の61,564人で計算

3 対策の優先順位の考え方

関係者や田原市市民意識調査での公共施設に対する市民の意見を参考にしつつ、以下の内容を総合的に勘案して、施設間における対策の優先順位を検討し、長寿命化等に取り組みます。

(1) 施設の状態

廃棄物処理施設	状態
焼却処理施設等	【旧リサイクルセンター】 H17d に休止した施設で、建設から 30 年超経過しており、施設全体に老朽化が進むとともに、特に電気・機械設備に劣化が激しく、健全度も低くなっています。 【赤羽根環境センター】 H25d に休止した施設で、建設から 25 年超経過しており、煙突や電気・機械設備も錆が発生しており、健全度も低くなっています。 【田原リサイクルセンター】 建設から 15 年が経過していますが、建築設備は健全な状態が保たれています。機械設備は劣化も進んでおり、引き続き稼働するためには機能回復するための修繕が必要となります。
粗大ごみ処理施設 (東部資源化センター内)	建築場所は、処分場跡地で建物周辺は多少の沈下が見られます。建物は擁壁にクラックはあるものの全体的には健全と判断できますが、機械設備の搬出コンベアは劣化が激しく業務に支障が生じています。
資源化・環境センター	【東部資源化センター】 建築場所は、処分場跡地でストックヤードや工場棟は地盤沈下による影響は少ないものの、管理棟は地盤沈下による傾きが多少見られます。また、計量器は設置後 25 年超経過しており、保守や修理に必要な部品の調達が困難となっています。 【赤羽根環境センター】 建設から 25 年超経過しているものの、全体に健全ではありますが、屋根や外壁などに錆が発生しており劣化が見られます。 【渥美資源化センター】 管理棟や車庫は、建設から 40 年超経過しており、劣化が見られます。 空缶処理作業場、パーゴラは、焼却施設解体後の H3d に建設したもので、錆が発生しています。 H19d に建設した倉庫は 10 年超経過していますが、健全な状況が保たれています。

廃棄物処理施設	状態
最終処分場	【旧田原リサイクルセンター】 建設から 30 年超経過しており、全体的に劣化が進んでおり、健全度も低くなっています。機械設備は定期的に修繕が必要となります。特に汚泥脱水機は錆が激しく直ちに機械の更新が必要です。 【東部資源化センター】 建築場所は、処分場跡地で建物周辺は多少の沈下が見られます。建物は、建設から 25 年超経過しており擁壁にクラックがあります。電気・機械設備は水処理施設の薬剤の影響からか錆が発生しており定期的に修繕が必要となります。 【第二東部最終処分場】 建設から 13 年が経過しているものの、建築設備は健全な状態が保たれていますが、機械設備は定期的に修繕が必要となります。 【赤羽根環境センター】 建設から 25 年超経過しており、全体に健全ではありますが、管理棟内部や機械設備は薬剤の影響からか錆が発生しており定期的に修繕が必要となります。 【渥美最終処分場】 建設から 25 年経過しており、全体に健全ではありますが、機械設備は定期的に修繕が必要となります。なお、管理棟には計量器が設置されていますが、設置後 25 年経過しており、保守や修理に必要な部品の調達が困難となっています。

（２）施設が果たしている役割等

市町村は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律による一般廃棄物の処理責任を有しております。本市が所有する廃棄物処理施設は、環境への負荷の少ない資源循環型社会の実現を目指し、ごみの発生抑制、再生利用及び適正処理を推進するために必要不可欠な施設であります。また、災害時においても必要な機能が保持できるよう施設整備及び施設運営を図ることが必要な施設となります。

(3) 施設整備の中長期的な基本的方針

ア 施設規模・配置等の方針

廃棄物処理施設	規模・配置の方針
焼却処理施設等	豊橋田原広域処理として R 7d から既存の豊橋市の焼却施設（広域ごみ焼却処理施設は R9d 建設予定）にごみを搬入する予定。それまでに田原市内にごみ中継施設を建設する。 田原リサイクルセンター炭生館は、R6d まで長期包括委託契約を締結。建物は再利用を検討し、取り壊しをする場合は、広域施設建設の翌年度から工事を実施する。
粗大ごみ処理施設	豊橋田原広域ごみ処理施設として今後豊橋市内に建設する粗大ごみ処理施設にごみを搬入して破碎するため、広域施設稼働後は、新資源化センターにて粗破碎できる程度の設備対応にしていける予定。 東部資源化センターの破碎処理機を広域施設が稼働するまで使用。
資源化・環境センター	現在、旧 3 町ごとに設置されている。粗大ごみ以外の日常で出るごみについては基本的にごみステーションで対応できるため、広域の粗大ごみ処理施設建設にあわせて 1 箇所に統合する方針とする。
最終処分場	現状の規模で約 50 年は利用が可能。
ごみ中継施設 【新設】	豊橋田原ごみ処理施設が稼働した場合には、ごみを豊橋まで運搬する際に、ごみ中継施設を新設し、ごみを大型車に積み替えて運搬する。

イ 今後の方向性

■ 現状の規模や機能を維持する施設

廃棄物処理施設	規模・配置の方針
最終処分場	埋立終了した処分場は、浸出水を適正に処理するため施設の維持管理を継続する。また、埋立中の処分場は、長期利用できるようごみの減容に努める。

■ 統合・廃止等を検討する施設

廃棄物処理施設	規模・配置の方針
焼却処理施設等	廃止予定：田原リサイクルセンター炭生館 旧田原リサイクルセンター（休止中） 赤羽根環境センター焼却施設工場棟（休止中）
粗大ごみ処理施設	廃止予定：東部資源化センター
資源化・環境センター	統合予定：東部資源化センター 赤羽根環境センター 渥美資源化センター

（４）改修等の中長期的な基本的方針

ア 目標使用年数、改修周期の設定等

本市の「衛生施設（廃棄物処理施設）」に係る目標使用年数、改修周期等を次のとおり設定します。

建物の耐用年数については、考え方が様々ありますが、法定耐用年数を上回る目標使用年数を設定し、予防保全による施設の長寿命化に取り組む必要があります。物理的な耐用年数は、構造、立地条件、使用状況の違いなどによっても大きく左右されますが、目標使用年数は、「建築物の耐久計画に関する考え方」（（社）日本建築学会）を参考に設定しています。また、日々の施設の点検等により、劣化、破損あるいはその拡大を未然に防ぐ予防保全の手法で、目標使用年数の達成を目指します。

【参考】「建築物の耐久計画に関する考え方」（（社）日本建築学会）

構 造	目標耐用年数	上限値	平均値
RC 造、SRC 造、S 造	50 年～80 年	80 年	65 年
木造	30 年～50 年	50 年	40 年

目標使用年数、改修周期等

廃棄物処理施設	目標使用年数	修繕の周期	改修の周期
田原リサイクルセンター	R6d まで	R6d まで随時	—
粗大ごみ処理施設	R13d まで	—	—
東部資源化センター （水処理施設）	R13d まで 80 年（R56d まで）	— 20 年	— 40 年
赤羽根環境センター （水処理施設）	R8d まで 80 年（R56d まで）	— 20 年	— 40 年
渥美資源化センター	R13d まで	—	—
第二東部最終処分場	80 年（R69d まで）	20 年	40 年
渥美最終処分場	80 年（R57d まで）	20 年	40 年

※東部と赤羽根の埋立処分場の水処理施設は、既定の水準に達しないと廃止することができない。

※資源化センターの統合場所を赤羽根環境センターと仮定して、費用は算出するものとする。

整備方法の定義

整備方法	定義
修繕	施設、設備、構造物等の機能維持のために必要となる補修・修繕などで、補修・修繕後の効用が当初の効用を上回らないもの。屋根や外壁の塗り替え、亀裂の補修など。
改修（長寿命化改修）	公共施設等を直すもので、改修後の効用が当初の効用を上回るもの。耐震改修、長寿命化改修など。転用も含む。
更新（建替）	老朽化等に伴い機能が低下した施設等を取り替え、同程度の機能に再整備すること。除却も含む。

施設更新の基準

焼却処理施設等	基準なし。広域化までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施する。
粗大ごみ処理施設	基準なし。統合までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施する。
資源化・環境センター	基準なし。統合までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施する。（R13d から新資源化センター） 水処理施設については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年（通常 60 年）で更新とする。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新する。
最終処分場	建設から 20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年（通常 60 年）で更新とする。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新する。

イ 長寿命化の方針

長寿命化の方針

田原市公共施設等総合管理計画	劣化の状況に応じて、適切な時期に適切な改修・修繕等を行い、施設の長寿命化による公共施設（建築物）の更新費用、ライフサイクルコストの削減を図ります。
----------------	---

長寿命化にあたっては、本市の公共施設（建築物）の全施設を比較して、更新コストが一定期間に集中した場合、市の財政負担を考慮して、優先度の高い施設を優先し、一部を先送りにするなど、コストの平準化を図り、実現性を高めております。また、個別施設計画の対象となっている施設の中でも、小規模な倉庫や自転車置き場など、更新コストが比較的少ない建物については、予防保全としての長寿命化対策は実施せず、事後保全としての修繕等に対応することとします。

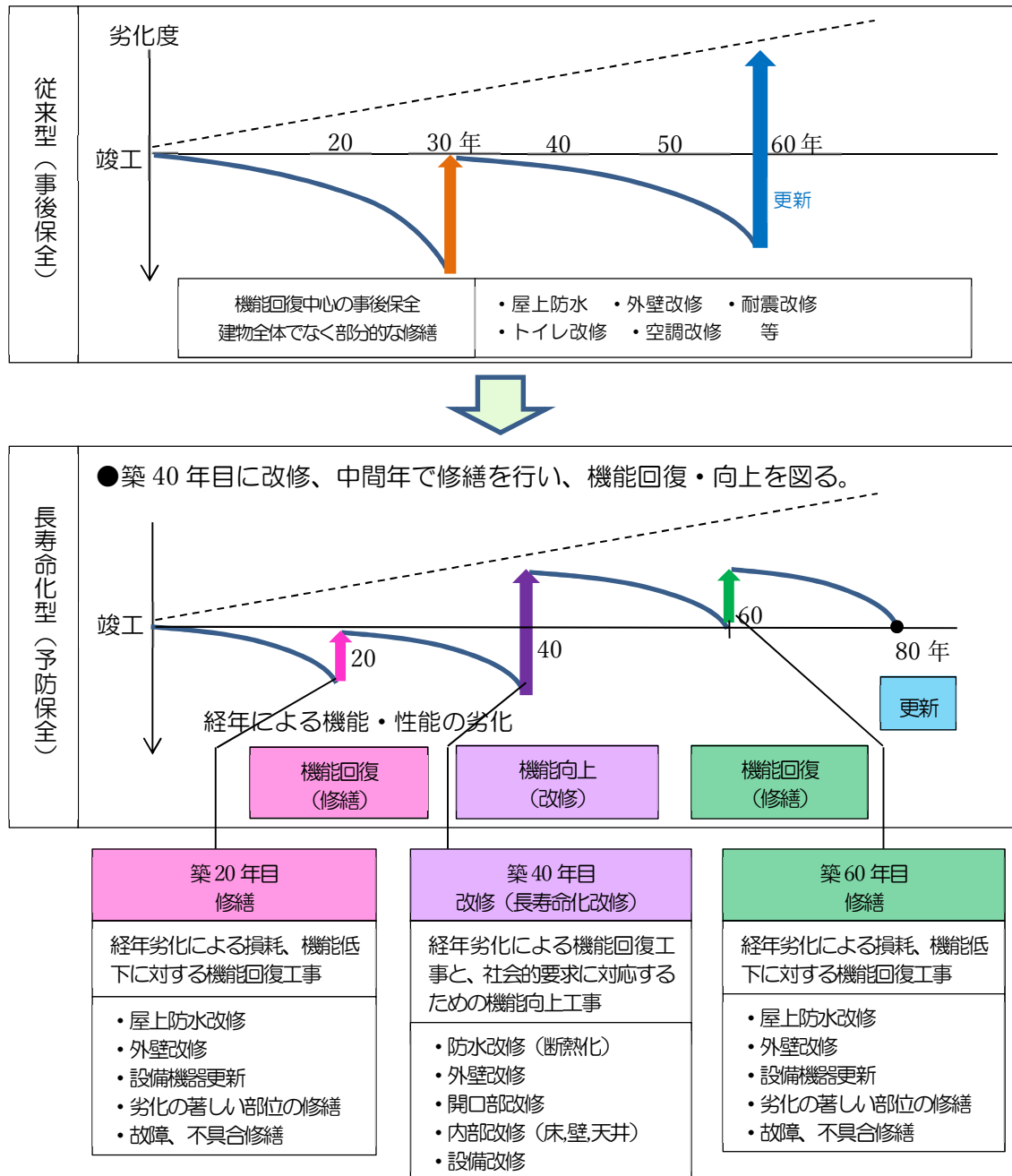
ウ 予防保全の方針

施設特性や安全性・経済性を考慮しつつ、定期的に劣化の有無や兆候を調査・把握し、劣化の状態を予測したうえで、計画的に改修・修繕等を実施し、施設機能の保持・回復を図り、予防保全に努めます。

これにより、施設の安心・安全を確保するとともに、維持・更新に係るコストの軽減や平準化を図ります。

また、最終処分場の水処理施設（機械設備）は、毎年定期的修繕を実施します。

◆従来型と長寿命化型の対策イメージは以下のとおりです。



（５）対策内容と実施時期

旧田原リサイクルセンターについては、令和 16 年度を目処に解体を実施します。

水処理施設については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

（単位：千円）

施設名	旧田原リサイクルセンター								年度別計
	工場棟	貯留・再資源化施設	管理棟	車庫	排水処理棟	浸出液処理施設機械棟	不燃物積込場	埋立排水薬品倉庫	
R3									
R4									
R5									
R6									
R7					43,391	61,504			104,895
R8									
R9									
R10									
R11									
R12									
R13									
R14								4,741	4,741
R15									
R16	解体	解体	解体	解体			解体		313,500
R17									
R18									
R19									
施設別計	0	0	0	0	43,391	61,504	0	4,741	423,136

東部資源化センターについては、令和 13 年度の統合までの間、破碎処理施設以外の大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施します。（R13d から新資源化センター）

水処理施設については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

(単位：千円)

施設名	東部資源化センター							年度別計
	前処理施設	水処理施設	工場棟	ストックヤード	管理棟	ストックヤード	管理棟	
R3								
R4								
R5								
R6								
R7								
R8								
R9								
R10								
R11								
R12								
R13	統合		統合	統合	統合	統合	統合	
R14	解体		解体	解体	解体	解体	解体	100,000
R15								
R16		106,784						106,784
R17		147						147
R18								
R19								
施設別計	0	106,931	0	0	0	0	0	206,931

第二東部最終処分場については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

(単位：千円)

施設名	第二東部最終処分場				年度別 計
	機械棟	管理棟	公園便 所	公園東 屋	
R3					
R4					
R5					
R6					
R7					
R8					
R9	9,747	7,560	2,012	41	19,360
R10					
R11					
R12					
R13					
R14					
R15					
R16					
R17					
R18					
R19					
施設別計	9,747	7,560	2,012	41	19,360

赤羽根環境センターについては、令和 13 年度統合のための新施設建設開始までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施します。（R13d から新資源化センター）

水処理施設については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

(単位：千円)

施設名	赤羽根環境センター							年度別計
	管理棟	倉庫	水処理施設機械室	計量棟	焼却施設工場棟	車庫	焼却施設工場棟	
R3								
R4								
R5								
R6								
R7								
R8								
R9	解体	解体		解体	解体	解体	解体	137,133
R10								
R11								
R12								
R13	統合	統合		統合	統合	統合	統合	
R14								
R15								
R16			134,779					134,779
R17								
R18								
R19								
施設別計	0	0	134,779	0	0	0	0	271,912

渥美資源化センターについては、令和 13 年度統合までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施します。（R13d から新資源化センター）

渥美最終処分場については、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

（単位：千円）

施設名	渥美資源化センター					年度別 計	渥美最終処分場		年度別 計
	管理棟	空缶処 理作業 場	車庫	パーゴラ	倉庫		管理棟	処理棟	
R3									
R4									
R5									
R6									
R7									
R8									
R9									
R10									
R11									
R12									
R13	統合	統合	統合	統合	統合				
R14									
R15	解体	解体	解体	解体	解体	50,000			
R16									
R17							52,632	192,354	244,986
R18									
R19									
施設別計	0	0	0	0	0	50,000	52,632	192,354	244,986

統合後の（仮称）田原市資源化センターについては、20 年毎で修繕、40 年で長寿命化改修、80 年で更新とします。ただし、ポンプ等については、毎年劣化度に合わせて更新します。

（単位：千円）

施設名	【統合後】（仮称）田原市資源化センター							年度別 計
R3								
R4								
R5								
R6								
R7								
R8								
R9								
R10								
R11								
R12								
R13	R13 新設							<u>660,666</u>
R14								
R15								
R16								
R17								
R18								
R19								
施設別計								660,666

※下線は循環型社会形成推進交付金活用を見込む

田原リサイクルセンターについては、令和 6 年度までの間、大規模な改修や更新は実施せず、維持管理上必要な最小限の修繕を実施します。

豊橋田原広域ごみ処理施設とごみ中継施設については、20 年で更新する予定ですが、更新年度の数年前から、長寿命化について検討することとします。

(単位：千円)

施設名	【広域後】 豊橋田原広域 ごみ処理施設	【広域後】 ごみ中継施設	田原リサイクル センター 炭生館	年度別計
R3				
R4	<u>1,826</u>	<u>16,126</u>		17,952
R5	<u>2,609</u>	<u>248,653</u>		251,262
R6	<u>286,995</u>	<u>672,166</u>		959,161
R7	<u>450,321</u>		広域化開始	450,321
R8	<u>1,013,353</u>			1,013,353
R9	<u>853,940</u>			853,940
R10	<u>12,760</u>		解体 <u>596,750</u>	609,510
R11	<u>36,191</u>			36,191
R12	<u>103,560</u>			103,560
R13	<u>168,905</u>			168,905
R14				
R15				
R16				
R17				
R18				
R19				
施設別計	2,930,460	936,945	596,750	4,464,155

※下線は循環型社会形成推進交付金活用を見込む

すべての施設の対策実施後の更新コストは以下のとおりです。

(単位：千円)

施設名	旧田原リサイクルセンター	東 部 資 源 化 セ ン ター	第 二 東 部 最 終 処 分 場	赤 羽 根 環 境 セ ン ター	渥 美 資 源 化 セ ン ター	渥 美 最 終 処 分 場	(仮称) 田 原 市 資 源 化 セ ン ター	豊 橋 田 原 広 域 ご み 処 理 施 設	ご み 中 継 施 設	田 原 リ サ イ ク ル セ ン ター 炭 生 館	年度別計
R3											
R4								<u>1,826</u>	<u>16,126</u>		17,952
R5								<u>2,609</u>	<u>248,653</u>		251,262
R6								<u>286,995</u>	<u>672,166</u>		959,161
R7	104,895							<u>450,321</u>		広域化開始	555,216
R8								<u>1,013,353</u>			1,013,353
R9			19,360	解体 <u>137,133</u>				<u>853,940</u>			1,010,433
R10								<u>12,760</u>		解体 <u>596,750</u>	609,510
R11								<u>36,191</u>			36,191
R12								<u>103,560</u>			103,560
R13		統合		統合	統合		<u>660,666</u>	<u>168,905</u>			829,571
R14	4,741	解体 100,000									104,741
R15					解体 50,000						50,000
R16	解体 313,500	106,784		134,779							555,063
R17		147				244,986					245,133
R18											
R19											
施設別計	423,136	206,931	19,360	271,912	50,000	244,986	660,666	2,930,460	936,945	596,750	6,341,146

※下線は循環型社会形成推進交付金活用を見込む

※各施設の解体費用は、機械設備の状況やダイオキシン類の対策等の関係により、大きく変動する可能性あり

4 長寿命化のコストの見通し、効果

ア 将来の施設更新コスト

計画期間の 17 年間（総合管理計画の 20 年間）で比較すると、将来の施設更新コストは、統合や長寿命化などの対策により 269,338 千円縮減することができます。17 年間では、豊橋市とのごみ処理広域化や資源化センター統合による施設の取り壊し及び新設コストが含まれているため、縮減コストが少なくなっています。

（単位：千円）

	対策実施前①	対策実施後②	①-②
17 年間（計画期間） 2021～2037 年	6,610,484	6,341,146	269,338
27 年間 ※参考 2021～2047 年	12,230,107	10,332,913	1,897,194
58 年間 ※参考 2021～2078 年	19,954,462	15,125,836	4,828,626

イ 将来の維持管理コスト

計画期間の 17 年間（総合管理計画の 20 年間）で比較すると、将来の維持管理コストは、統合や長寿命化などの対策により 5,625,831 千円縮減することができます。

（単位：千円）

	対策実施前①	対策実施後②	①-②
17 年間（計画期間） 2021～2037 年	16,396,721	10,770,890	5,625,831
27 年間 ※参考 2021～2047 年	26,041,851	15,904,890	10,136,961
58 年間 ※参考 2021～2078 年	55,941,754	31,820,290	24,121,464

ウ 将来の施設更新コスト+将来の維持管理コスト

計画期間の 17 年間で、施設更新コストと維持管理費コストの合計は、5,895,169 千円縮減することができます。

（単位：千円）

	対策実施前①	対策実施後②	①-②
17 年間（計画期間） 2021～2037 年	23,007,205	17,112,036	5,895,169
27 年間 ※参考 2021～2047 年	38,271,958	26,237,803	12,034,155
58 年間 ※参考 2021～2078 年	75,896,216	46,946,126	28,950,090

5 計画の推進

(1) 計画の推進方法

ファシリティマネジメント担当課である企画課や財政関連の担当課である財政課、技術職を有する建築課と情報共有を図りながらマネジメントを行っていますが、必要に応じて田原市公共施設等適正化推進会議等を活用し、全庁的な体制で対応を図ります。

(2) 計画の進行管理

社会情勢の変化や施設の劣化状況等により、変更の必要が生じたときは、柔軟に計画の見直しを実施します。また、計画に位置付けられた事業は、田原市総合計画の実施計画の中で平準化するなど、実施年次及び個別の事業費を精査するとともに、補助金、地方債などを積極的に活用し、財源の確保を図りながら、与えられた財源の中で実現を目指します。進行管理の手順については、Plan（計画）・Do（実施）・Check（評価）・Action（改善）のサイクルを繰り返すことにより、継続的な改善を図ります。